# 地図の知識

東山中
西海村
洲巻
渡瀬
正院
岡田
山田谷地
保山
岩坂
飯塚
直村
小路
若山村
鈴内
廣栗
出田
脇田谷内
本江寺
鹿野
野々江
正院
飯田町
上戸村
北方
若山川
至輪島

## はじめに

廣い地域を何分の一かに縮めて、一枚の図に表わしたものが地図である。しかし実際の土地の様子を何から何まで一枚の地図に盛込むわけにはいかないから、使う目的によって、内容は取捨撰択される。そして紙面を節約するために、適当な記号や表現法が約束によって定められている。また丸い地球を平な紙の上に表わそうというのだから、形の上にゆがみのあることは避けられない。そういう規約の下で地図は正確なものでなければならない。旅行に、ハイキングに、都市計画に、土木工事に、我々の生活は地図から離れられない。地図はいかにして作られるか、何を表わすか、またいかに読むべきか、いかに使うべきか……。この本はこれらを解明しようとする。

本書に収録した地図、海図は、夫々地理調査所、海上保安廳より掲載許可済

目 次



定価100円 1954年 3月20日 第1刷発行 1957年10月20日 第7刷発行 © 発行者 岩波雄二郎 印刷者 米屋勇 印刷所 東京都港区芝浦2ノ1 半七写真印刷工業株式会社 製本所 永井製本所 発行所 東京都千代田区神田一ツ橋2ノ3 株式会社岩波書店

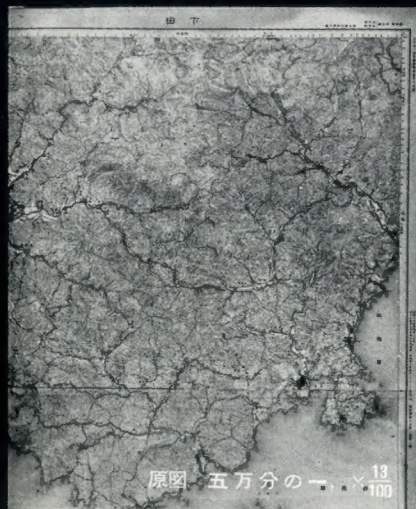
表紙の原版と同じ場所（修正前の地図）

# 地図とは

地図とは一体何だろうか．大雑把にいうならば，或る地域について，或る特定の事柄を，或る規約に従って，平面の上に縮小して表現したものといってよいであろう．必要なものは正確に書き表わされているが，必要でないことは，省略されているか，簡単にされているか，不正確になっているか，いずれかである．或る事柄を目的とする地図から，夫以外の事柄を知ろうとしても，それは無駄である．

①家の間取図も地図の一種である．壁を太い黒い線で表わすというのも一つの規約である．これは間取を示すのが主な目的であるから，畳の敷き方や天井の高さなどはわからない．②町内案内図は，誰の隣に誰が住んでいるかを示すことが目的である．だから地面の廣さや形は，殆んど問題にならない．③東京附近の私鉄，省線の連絡切符．方角も距離も，全然正確ではない．しかし各駅の前後関係だけは正確である．これでも地図の一種であることには，間違いないのである．④東京駅で観光地図を眺めている人たち．宿屋の案内であるから，ほかのことがらの正確さというものは犠牲になっている．⑥東京駅で観光図を見てから，カメラは伊豆に向った．鳥瞰図というのも一種の地図にはちがいない．地図の規約をよく知らなくても，地勢の大勢がわかるという点で便利である．⑦下田に着いたら，バスの終点にこんな図が出ていた．縮尺の関係は全くでたらめであるが，案内の役目を果している．⑧宿について休んだら，こんな盆に茶をのせてもって来た．これも地図である．その代り，三ヵ所の温泉の場所と天城山とだけしか書いてない．伊豆半島の輪廓も図案化している．⑩尋ねる場所を人にきいたら，木片で地面に道を書いて教えてくれた．これでも道筋はちゃんとわかるのだから，これも地図といえる．⑤戦前陸地測量部から発行されていた大江山図幅である．右の方は要塞地帯だというので，すっかりけずり取られていた．⑨送電会社の司令室には，壁一杯のこんな大きな地図がある．それには，送電線の系統が示されている．係はそれを見守り，計画をたて，連絡をとり，その司令を発しているのである．

地図にとって正確ということは大切であるけれども，何から何まで正確というわけにはいかない．正確無比といわれる地理調査所発行の，五万分の一の地図をみても，海のところには何も書いてない．鉄道線路は幅約 1 mm に書いてあるが之を 5 万倍すれば 50 m にもなる．また本来の目的でないような事柄まで力みかえる必要もないのである．殊に観光案内などになると絵画的の要素さえ加わってくる．

日本全図からその一部を拡大し，その一部の伊豆半島を拡大し，その東南端を拡大した.

山に登って下田町を写真に撮った. その場所と方向は，7頁上右の写真が示している.

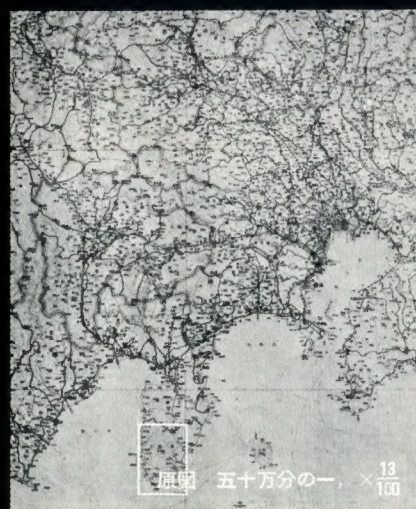
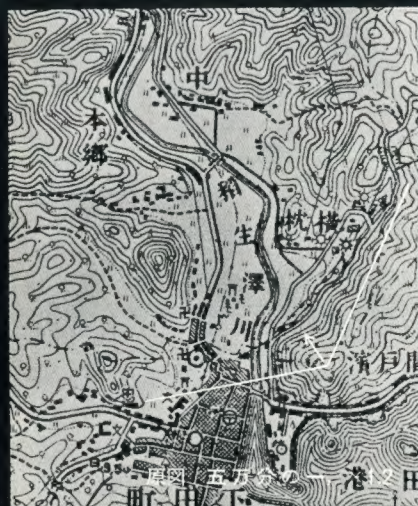
原図　五万分の一，$\times\frac{13}{100}$

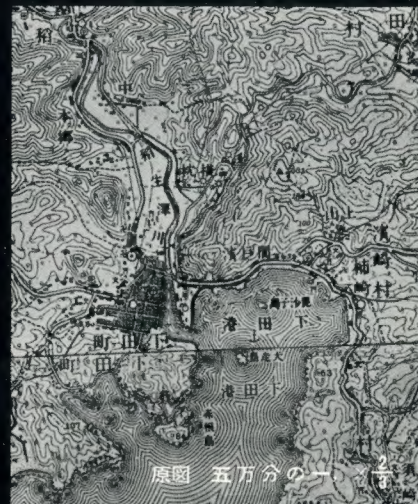
原図　二十万分の一，$\times\frac{14}{100}$

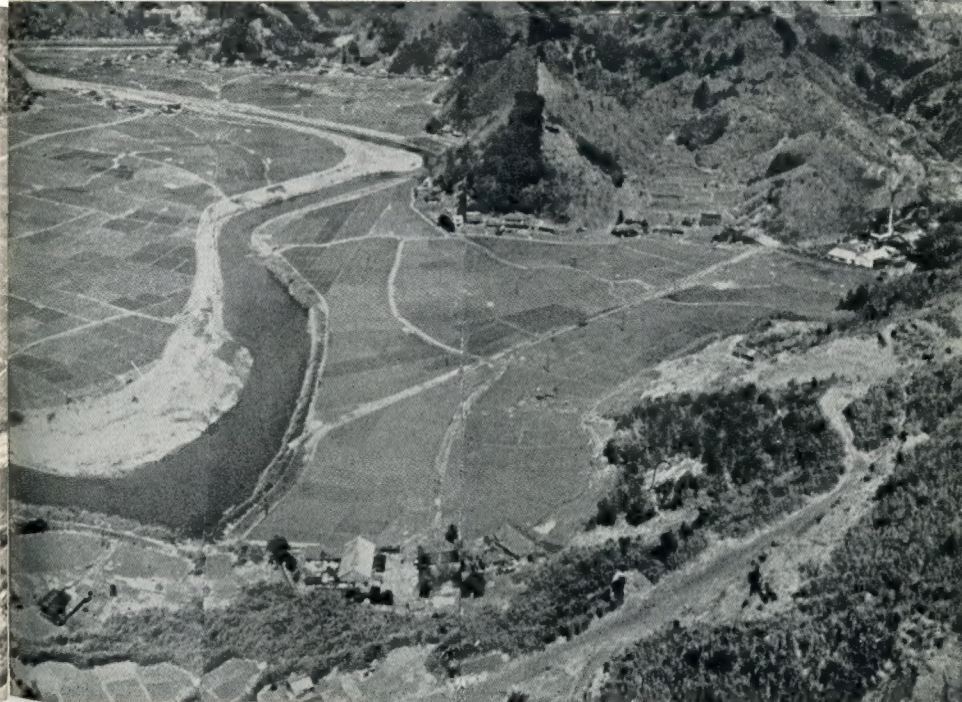
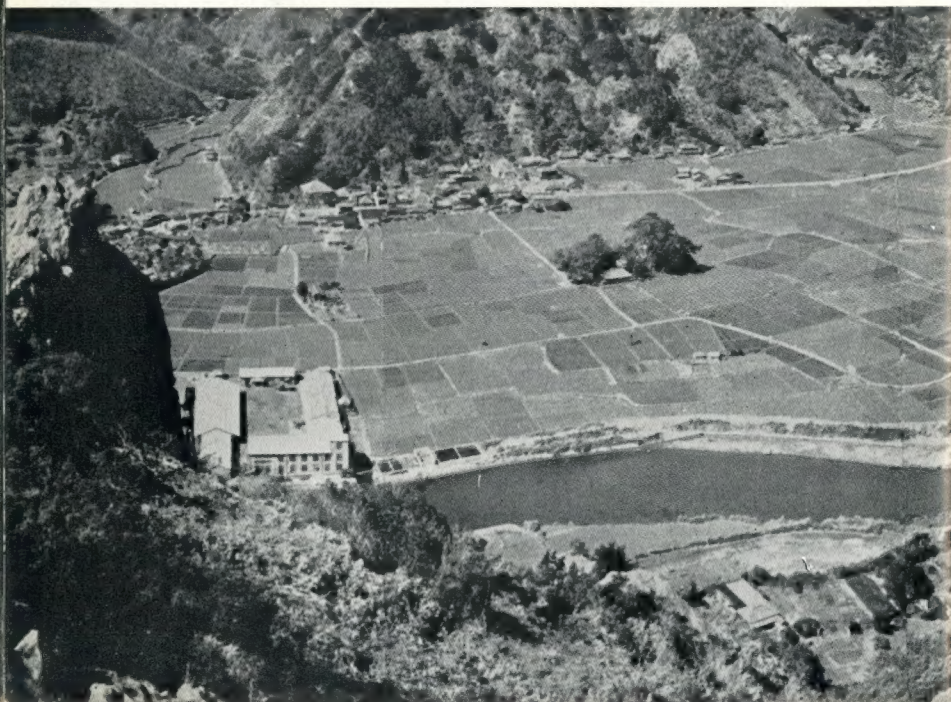
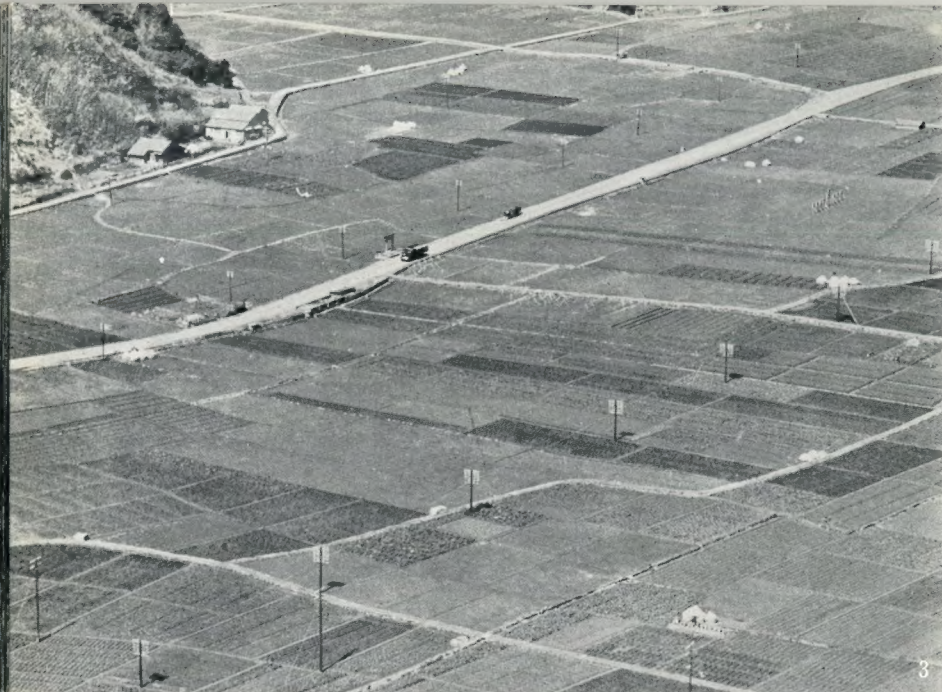
原図　五十万分の一，$\times\frac{13}{100}$

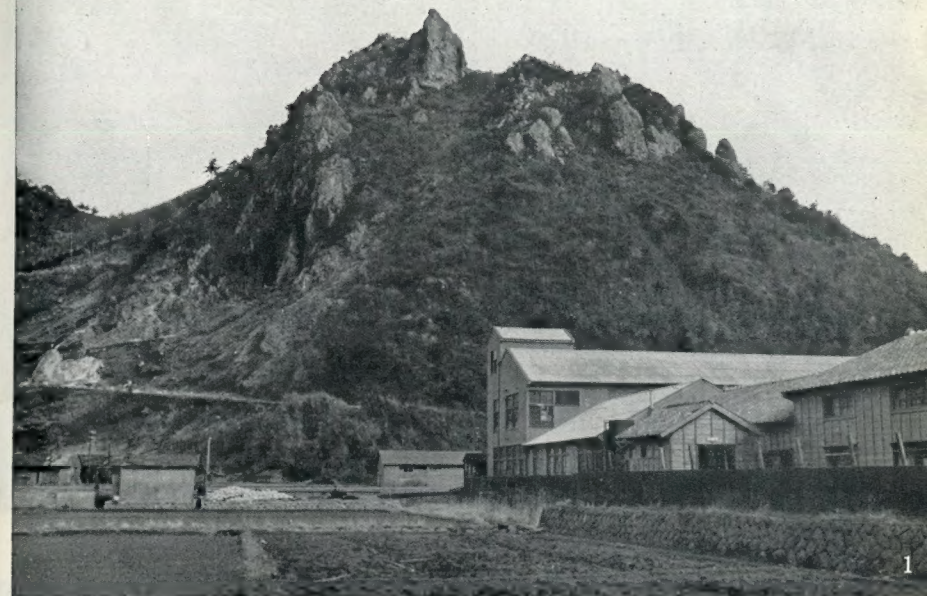
原図　二百万分の一，$\times\frac{7}{100}$

原図 五万分の一，×1.2

原図 五万分の一，×1.2

山に登って北向きに写眞を撮った．写眞(下)と地図(上左)を対照してみるとなかなか面白い．まがりくねっているのは稲生沢川．その川をはさんで田がある．稲生沢川が山の後にかくれようとするところに橋()()がある．川の向う側のこんもりした森は，神社(幵)である．向うの山の裾には寺(卍)がある．大きい屋根が写眞にもあらわれている．幅の廣い道と狭い道とが，地図の上で，どういう風に差別して示されているか，みてほしい．地図を読むには，やはりいろいろの言葉を覚えなければならないのである．(ここに掲げた一連の地図は，地理調査所発行の五万分の一の地図の一部を拡大縮小したものである．だから縮尺は五万分の一のままではない．写眞を撮した場所と方向とは，地図の上に示してある．)

原図 五万分の一，×2/3

いろいろの符号によってしめされている道路，学校，寺，田，橋，岩などが現れてくる。

その拡大を続けていくと，町が現れ，山が現れ，川が現れてくる．もっと続けてみよう．

3

4



1

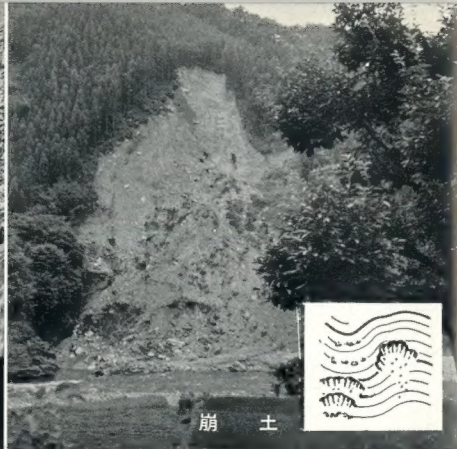
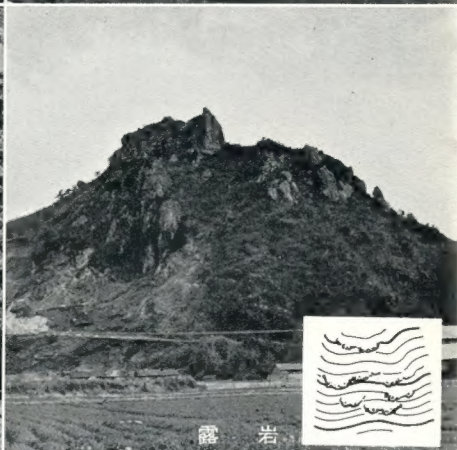
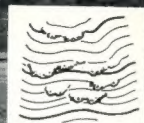
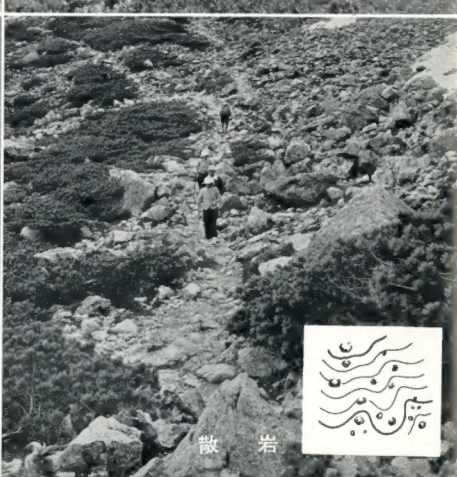
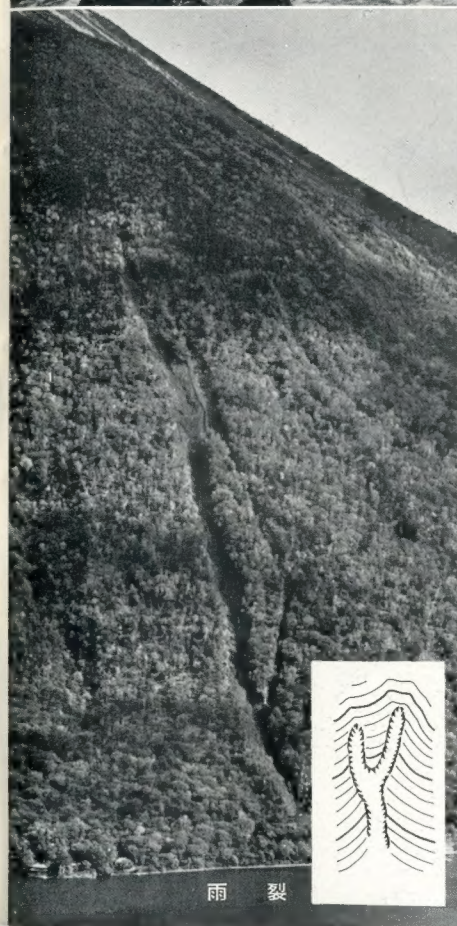
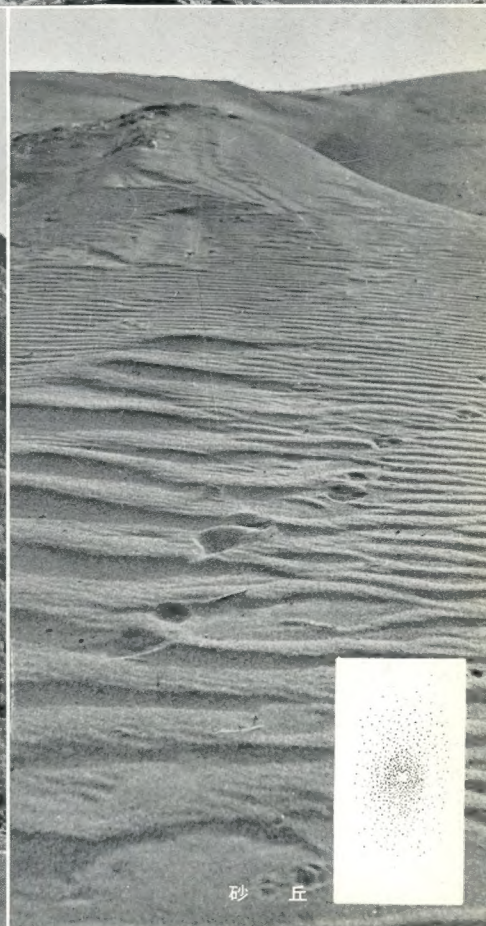
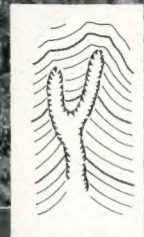
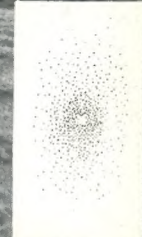
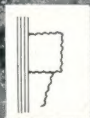
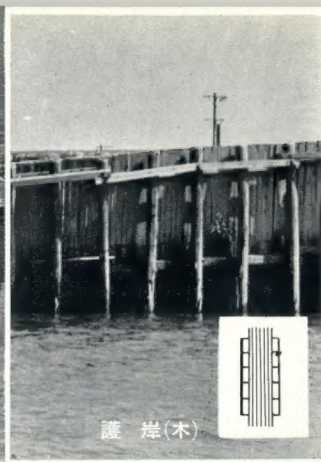
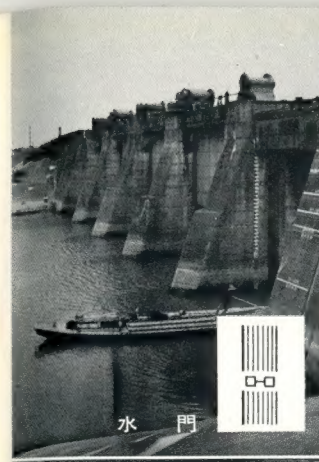
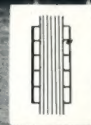
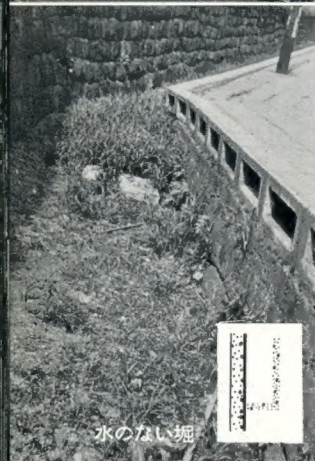
地図の記号はどう決めてもよいわけだが主眼は，ものの区別が明確につき，意匠が美しくて描きやすいことにある．従って記号の制定は実際にはなかなか難しい．日本の地形図の記号は，明治18年以來，70年の歴史をもち，その間，数回にわたって改良されている．記号変遷の歴史は興味ふかいが，例えば郵便局の記号は現在の形におちつくまでに次のように変った．―■―(明治18年)，⊠(明治23年)，〒(明治42年以降)．倉庫の記号も初め(明治27年)は■ｺ(鍵)だったのが，明治42年に⏄(錠前)に改められた．変化のはなはだしいのは火山の記号で，♨ ♨ ♨ ♨とだんだん單純化されてきた．記号のうちで一番よく知られ，また最大の傑作といわれる溫泉の記号は，明治18年に制定されたそのままである．(ただし，地形図の記号としては，湯氣をしめす三本の線は，彎曲させないのがほんとうである．)

2

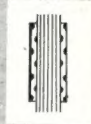
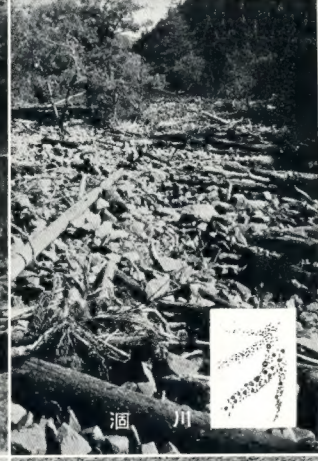
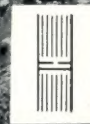
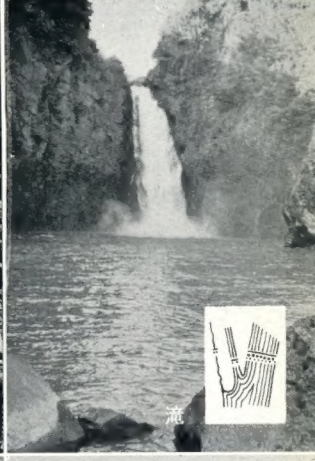
岩くずれ
崩　土
熔岩流
露　岩
けわしい崖
散　岩
磯
雨　裂
砂　丘

水のある堀

水　制

護　岸(木)

水のない堀

水　草

護　岸(石又はコンクリート)

田　舟

けわしい崖

水　門

水流の方向

堰

涸　川

滝

護岸用の杭

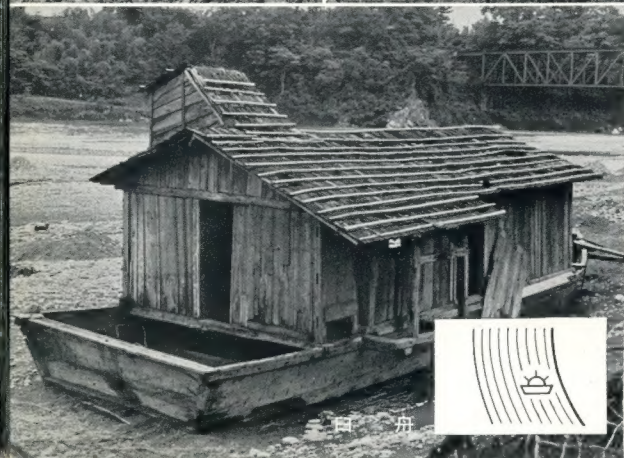
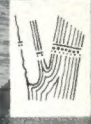
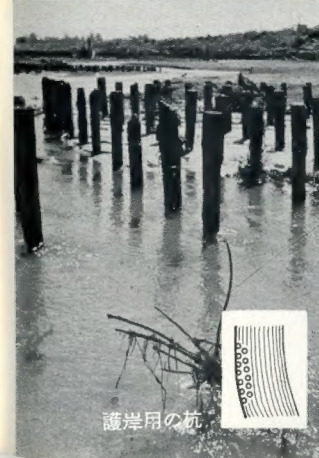
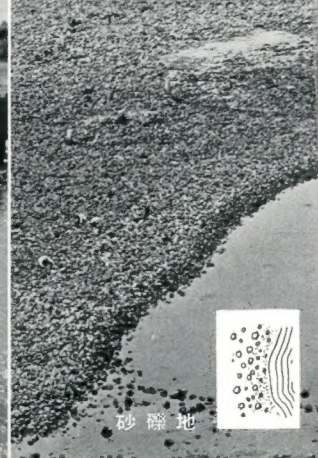
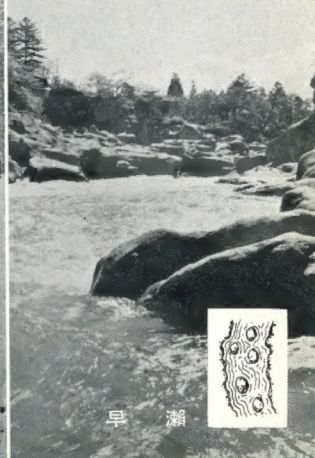
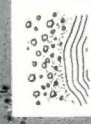
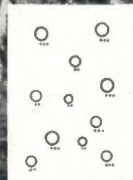
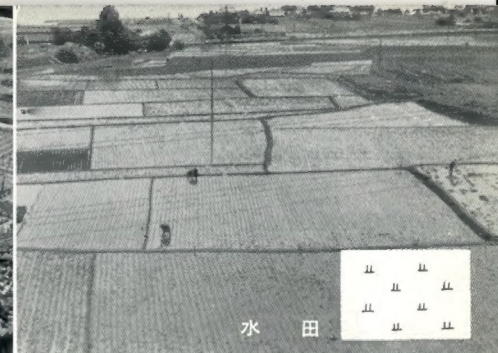
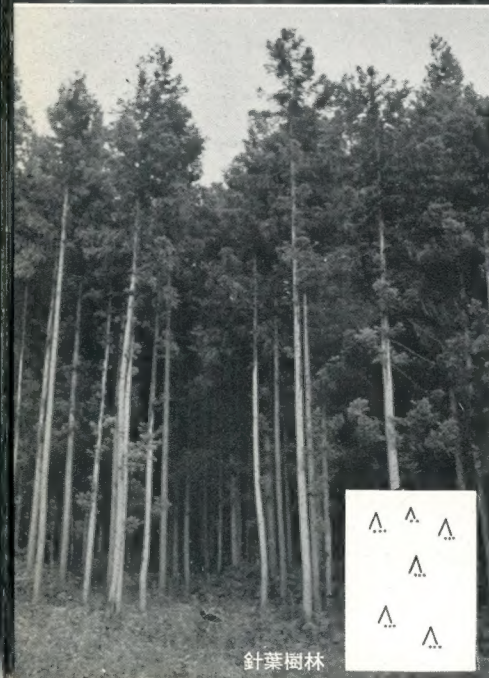
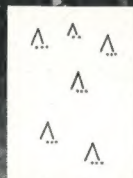
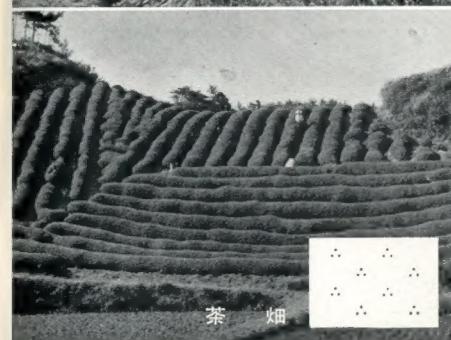
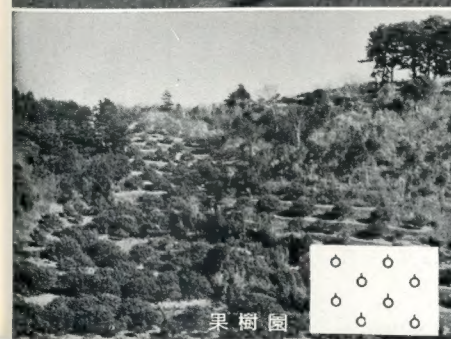
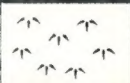
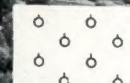
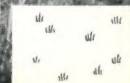
砂礫地

早　瀬

竹　林
濶葉樹林
しゅろ科樹林
針葉樹林
枯木林
篠　地
畑　地
水　田
桑　畑
沼　田
茶　畑
草地（牧草栽培地）
果樹園
荒　地

3

4

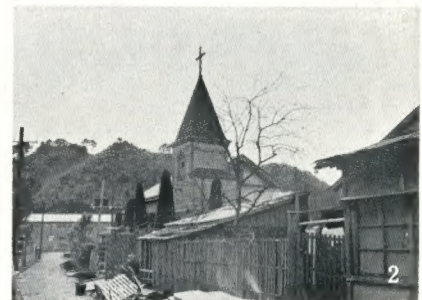
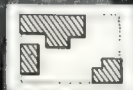
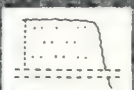
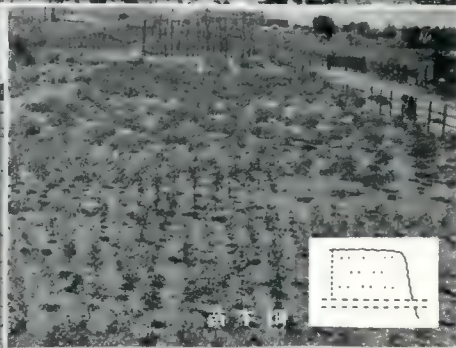
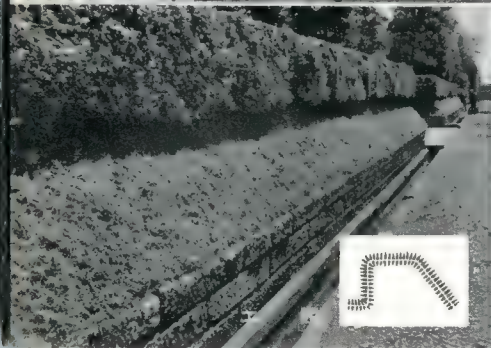
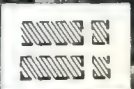
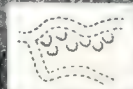
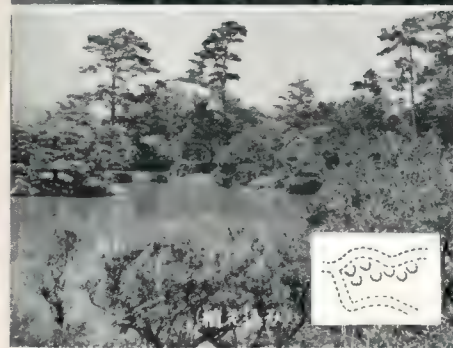
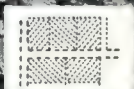
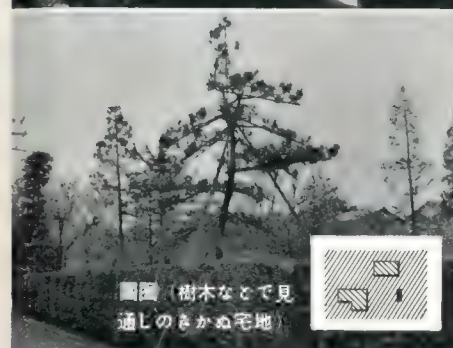
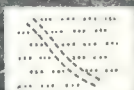
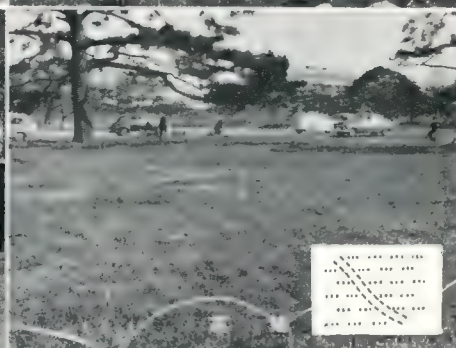
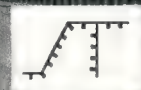
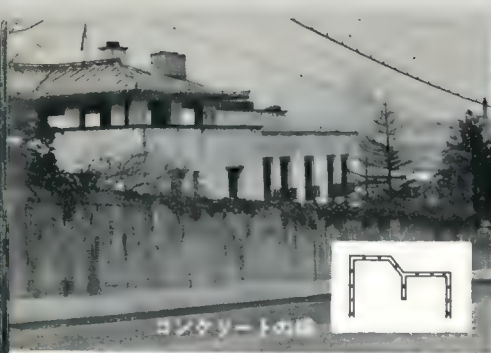
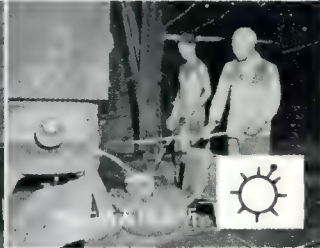
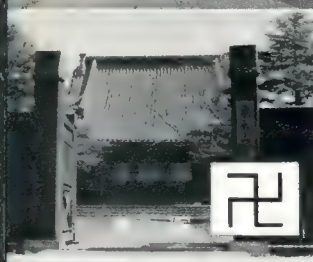
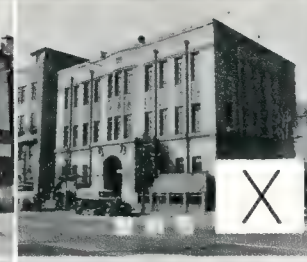
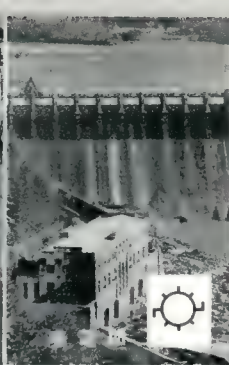
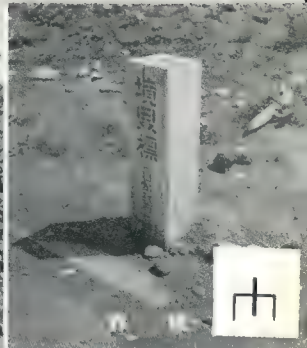
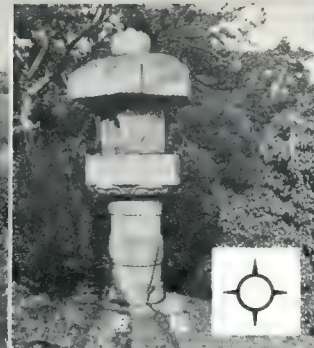
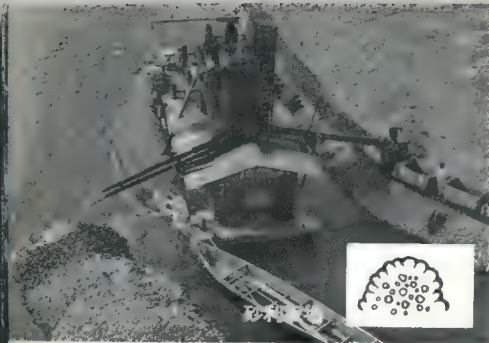
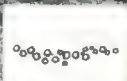
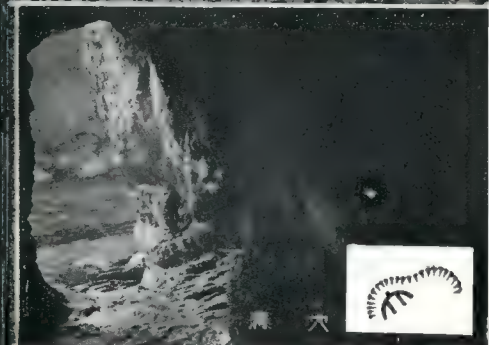
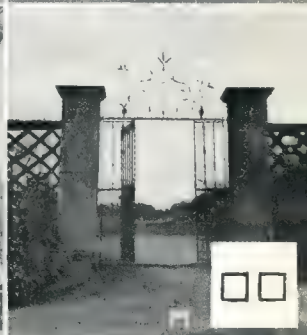
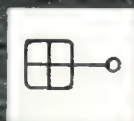
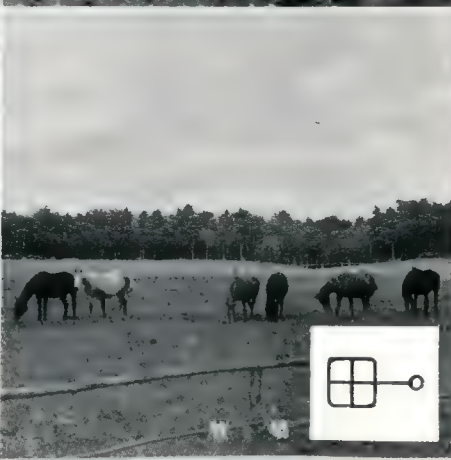
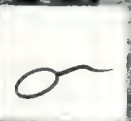
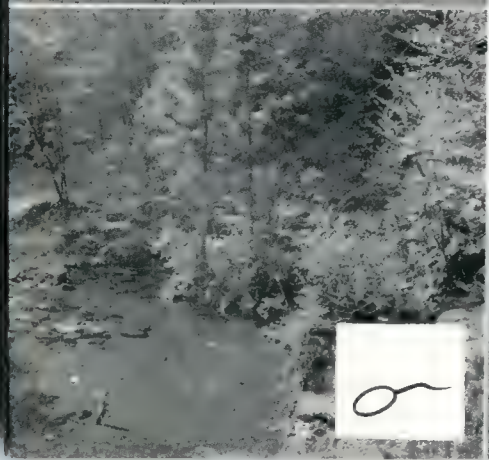
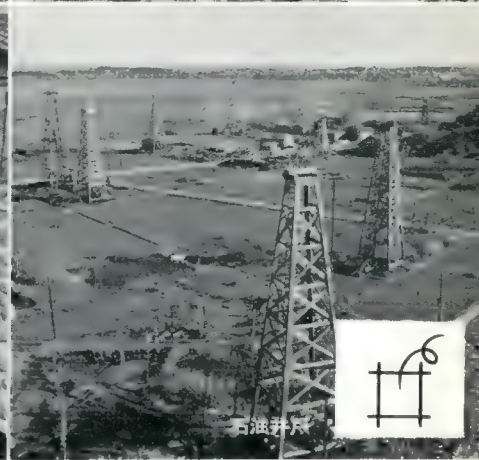
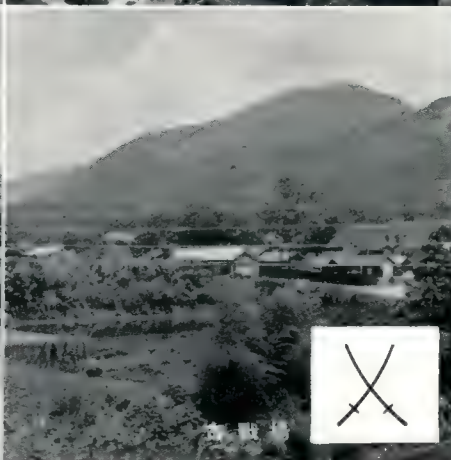
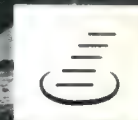
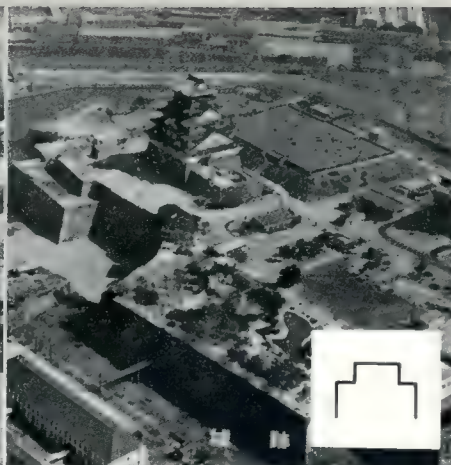
1

地形図は記号によっていろいろなものを簡潔に表示する．けれども地上の地物は千態万様で，もしそのすべてに別々の記号を与えれば，地図は非常に複雑になり，かえってわかりにくい．そこで地物を分類して同種のものには一個の記号を定め，また地物をたくみに取捨選択して，地形図をみればそこの状態が正しく推察でき，また現地と地図を対照すれば，明確にそれぞれの地点が指摘できるように苦心がはらわれている．記号だけでは内容の不明なもの，たとえば学校の記号（文）だけでは何学校か不明だから，必要な場合には何々学校と註記するか，文（高）のように略註記することがある．略註記はアメリカの地形図などには盛んに用いられ，cem（墓地） RR（鉄道） WT（水槽）などと表示する．日本字は，こういう使い方には不向きだが，その代り，文字をそのまま記号化できるという便利さがある．

2

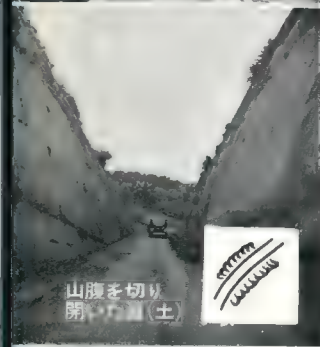
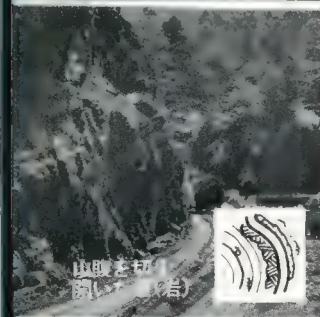
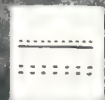
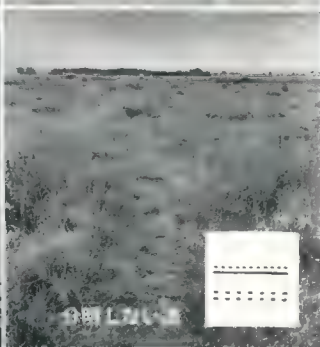
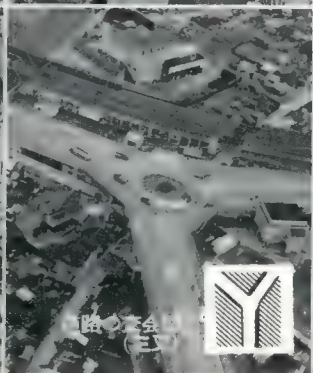
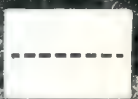
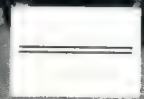
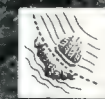
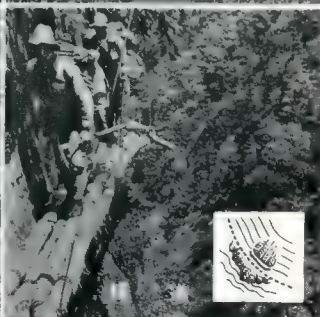
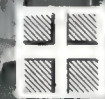
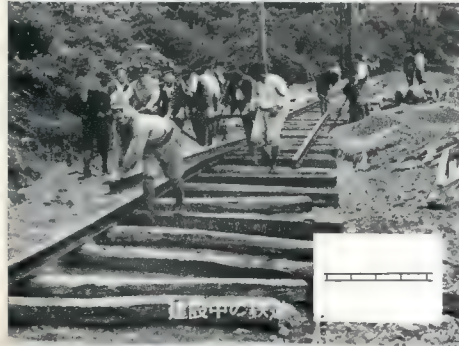
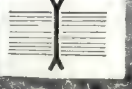
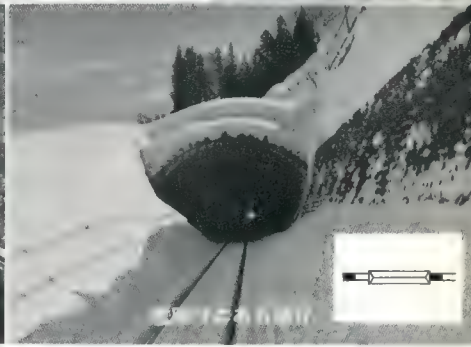
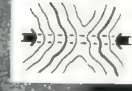
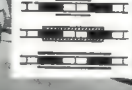
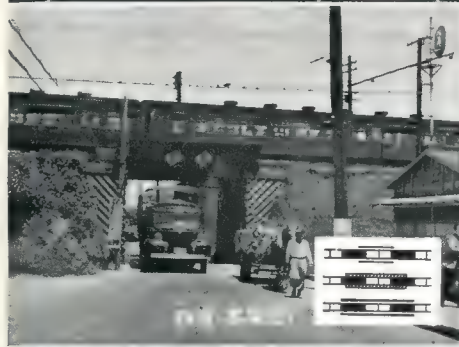
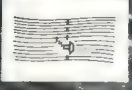
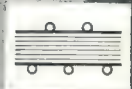
（樹木などで見
通しのきかぬ宅地）

測候所
都道府県
病院
裁判所
市役所
刑務所

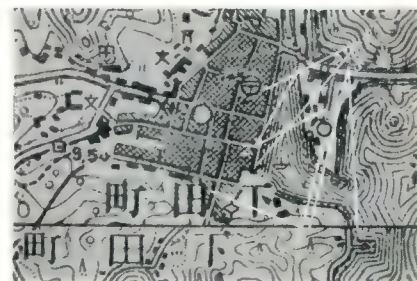
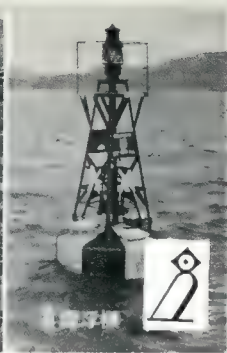
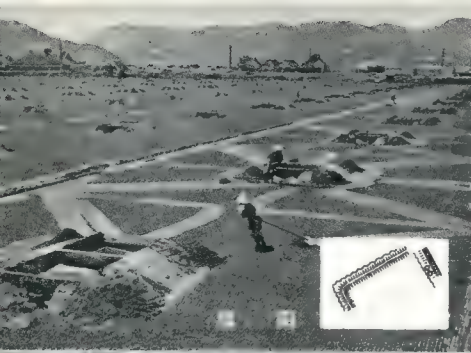
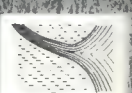
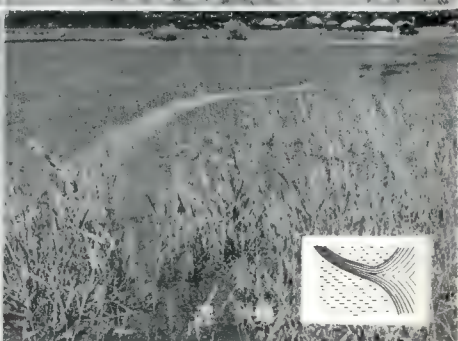
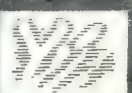
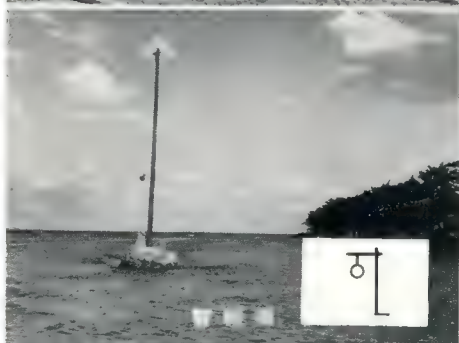
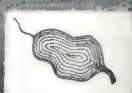
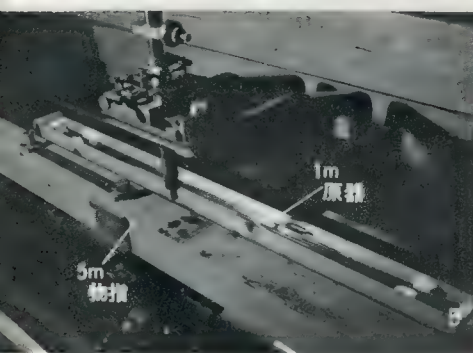
+6.0
独立樹(針葉)
楼門, 石段

城 跡
山 陵
古戦場
火 山
石油井戸
採鉱地

地名，物名，標高などの説明文字である註記にも，それぞれ厳重な規則があって，漫然と任意の位置に記入されているのではない．正しい位置は，神社や発電所のような独立地物では，その上の方に垂直に書くか，右方に水平に書くのがほんとうであり，左方や下方へ書くのはやむを得ない場合だけである．部落のような集團地物の場合はその形によって上方に水平，または右方にその名前を垂直に書く．もし形が大きければ，その主要部の中央に書くことができる．また，道路，河川，鉄道のような細長い地物の名称は，字の間隔を大きくして，その中央部分に沿わせて上方，右方，又はその内部に書く．とくに川が蛇行するような場合には文字の方向に，特別の注意が拂われる．註記で最も苦心するのは地名で，公称，通称，現称，旧称などがあり，そのどれを採るかは，測量者の常に頭を悩ます所である．

山腹を切り

鉄道(複線)
コンクリートの橋

下田の街と港——高度[illegible]mから撮影.
地図は地理調査所発行，五万分の一地
形図「下田」「神子元島」の部分，原寸.

町村名，家屋の名，橋の名などには，一定の大きさの註記文字を使うが，その他の大部分の地物については，その大小，資格によって字の大きさを変えてある．たとえば部落などの名は，人口千人以下の場合は，活字の一辺が2.0 mm (以下同様)，千人以上2.5，1万人以上3.0，5万人以上3.5，10万人以上4.0というようになっている．山の名は標高1,000 m 以下2.0，1,000 m 以上2.5，2,000 m 以上3.0，河川の名は流程5里以下1.5，5里以上2.0，10里以上2.5，30里以上3.0，となっている．道路は縣道以上が2.0，市町村道以下1.5，鉄道は普通鉄道2.0，軌道は1.5，ときまっている．その他，森林，原野，湖沼，島なども，その面積で字の大きさが異り，神社，公園なども著名の程度で，1.5，2.0のどちらかが使われる．字の間隔にも，それぞれ同じような規則がある．

無燈浮標

⑤基線測量に使う25mの物指を検定するには，5mの物指を仲介とする．その5mの物指は，1mの原器により検定される．

⑥こうして定められた25mの2点の間に長さ25mの針金を張って，針金の正確な長さを定める．針金は一定の張力で張る．

③時刻を定めるためには無線電信によって報時信号を受ける．長いテープの上に信号が記錄される．天幕に蠟燭がゆれる．

④1mの原器によって検定された5mの物指を，車にのせて5回横にずらして，正確に25mの距離にある2点をさだめる．

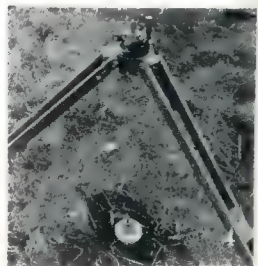
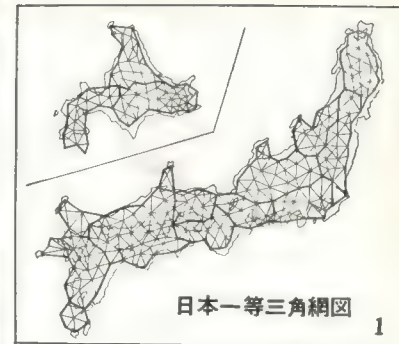
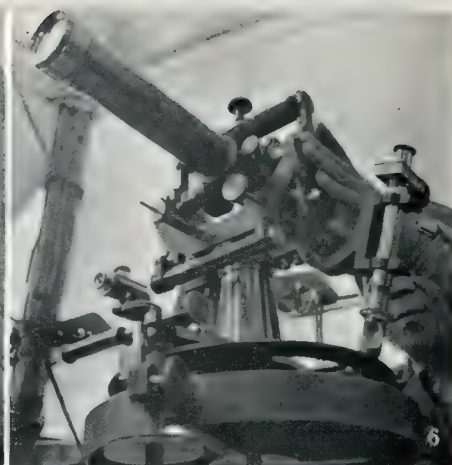
# 測量と作図

日本ではいろいろの地図が発行されているがそのすべての基礎となるのは，建設省地理調査所の発行するものである．地理調査所は測量から計算・製図・製版・印刷まで，地図にかんするすべての作業を行って，正確な地図を供給するのが，そのつとめである．その作業は，地図をつくる上の一つの標準ともいうべきものであるから，しばらくそれについて説明しよう．諸外國でも，地図製作の基本はすべて政府の手によって行われる．まず，日本全國にいくつかの点をえらんで，その位置をできるだけ正確に測る．そして，それらの点を土台として，測量をだんだん小さいところに及ぼしていくというのが原則である．点の位置とは，経度と緯度のことである．経緯度を定めるのは，星を観測して，ある時刻にその星の見える方向を知ればよい．最も基本的な観測であるから，できるだけ正確でなければならない．①②③天体測量とならんで大切なのは，基線測量である．日本全國の少くともどこか一ヵ所では地面に直接ものさしをあてて，二点間の距離を測らなければならない．この基線測量はすべての距離の基本になるのであるから，それに使うものさしは非常に正確でなければならない．ものさしの長さは 25 m をとることになっているが，それがはたして正確に 25mであるかどうかは，原器によって嚴密に検定されるのである④⑤⑥．

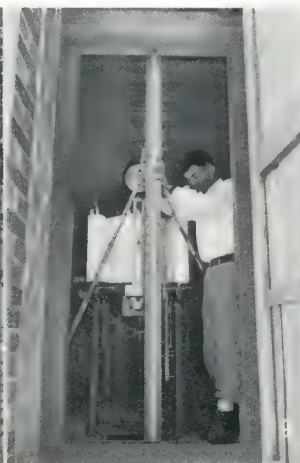
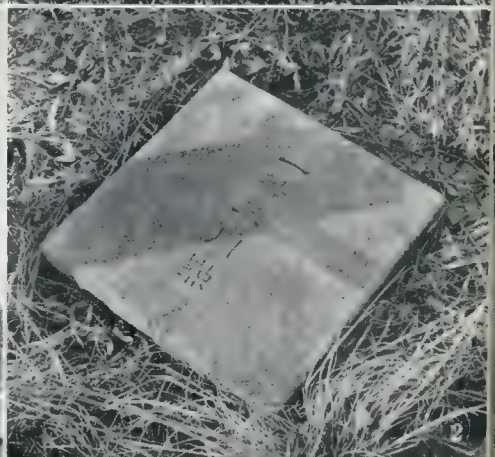
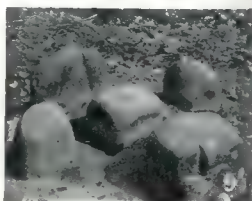
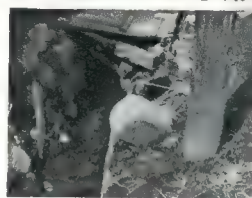
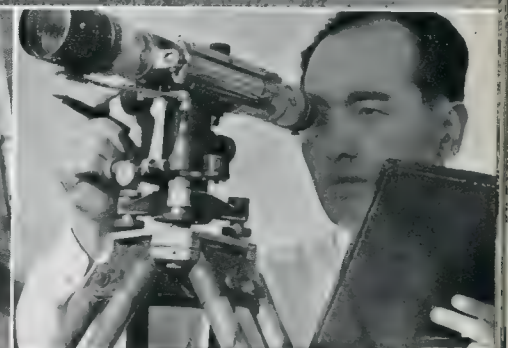
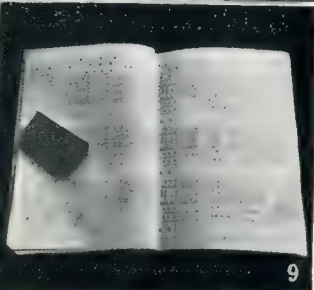
①山の上に天幕が張られる．左の天幕に見えるのが，星を観測する子午儀である．右の天幕は，計算室であり，宿舎である．

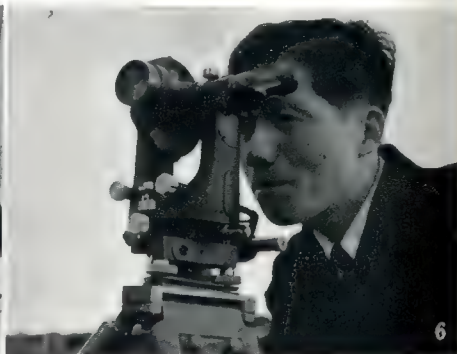
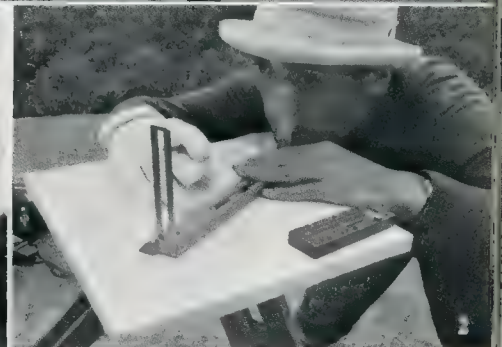
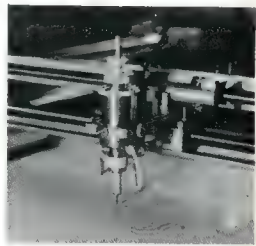
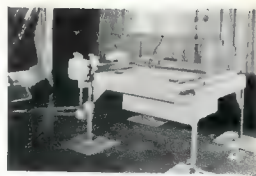
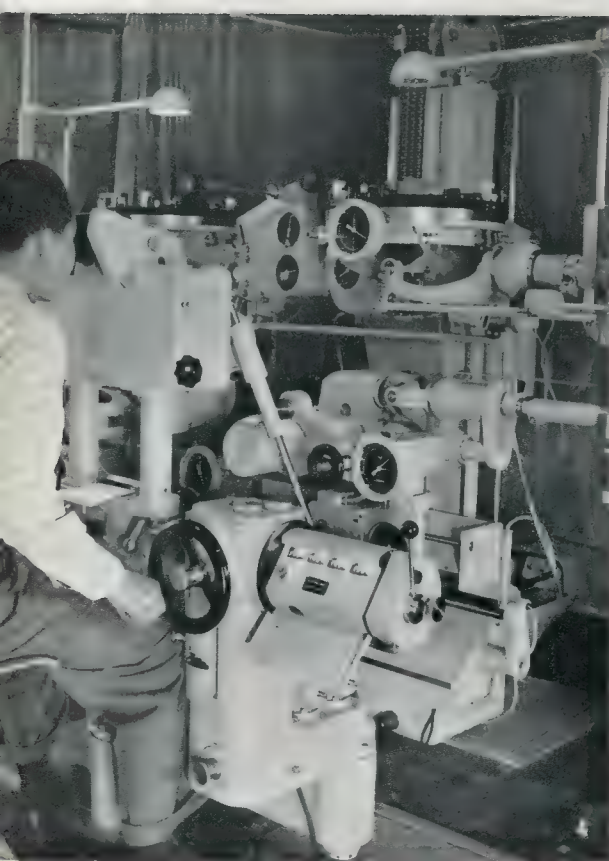
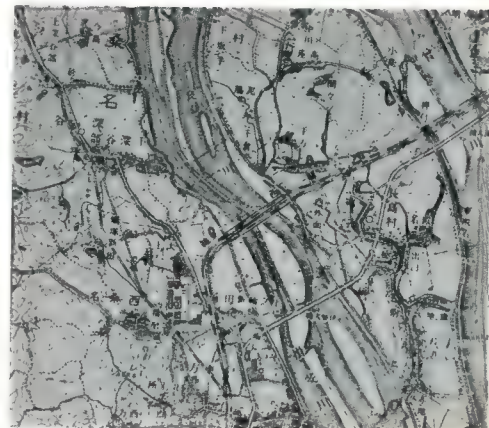
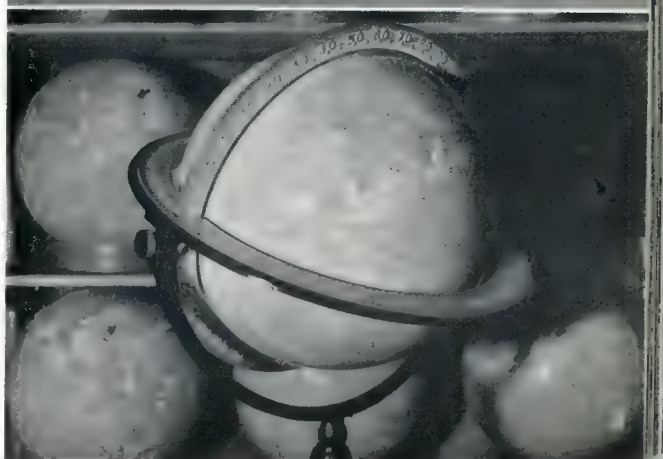
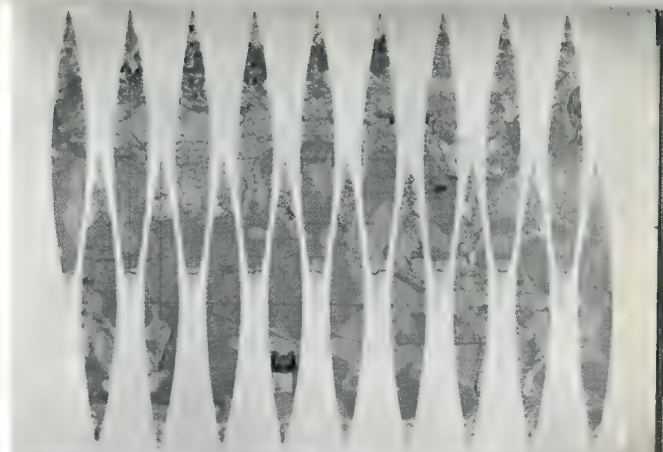
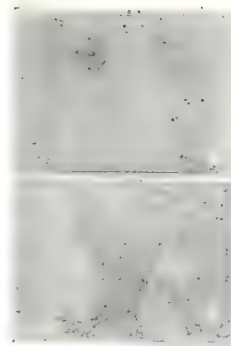
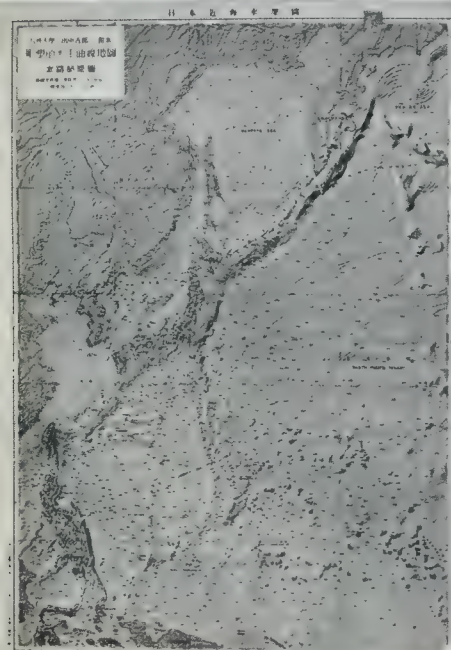
②子午儀によって星の高度を観測したりまた，きまった方向を星が通過する時刻を定めたりする．靜かな山に夜は更ける．

基線は多くは数kmの長さであって，平らな廣い土地にもうけられる．基線の両端の間の距離を，長さ25mの針金の物指によって測る．数kmの長さの間を25mずつに区切って柱をたて，各区間の長さを正確に測ってそれらの値を加える．①は針金物指の運搬．②は測定中の全貌．③は針金の調整．④と⑤とは25mのつなぎめ．④のような三脚を使うことも，⑤のような柱を使うこともある．⑥は基線の端点．

日本一等三角網図 1

日本全國にたくさんの三角点がある，それらを結ぶ三角形が全國をおおっている．これらの三角形の形を定めるのが三角測量である．三角測量によって，三角点の位置が正確にもとめられ，それを基準にして地図が作られていく．①全國をおおっている一等三角網．②一等三角点．三角形の頂点にあたる．③三角点の上にやぐらを組む．器械をこのやぐらにのせて，他の三角点の方向を測る．他の三角点にあるやぐらのてっぺんをねらって，方向を測る．④三角点とやぐらのてっぺんとの上下関係をしらべる．⑤準備作業．⑥⑦他の三角点をねらい角度を読む．⑧太陽光線を反射させて目印にする．⑨天幕のなかで測量の結果を計算する．⑩食事の準備．⑪飲み水を山の下から運びあげる．測量の苦労は，並み大抵ではない．

①全國三角点の原点は，東京都麻布の旧東京天文台構内にある．戦災にあって，附近はこのように荒れはててしまった．②一等三角点は，このようにして保護されている．③ふたをとると，三角点の十文字があらわれる．各地点の高さを測るのが，水準測量である．④⑤高さの原点は，東京都三宅坂にあって，このように保護されている．他の点の高さを定めるには，すべてこの原点を基準としている．⑥は水準原点．⑦この水準原点自身の高さは，平均海水面と比較して定められているのである．全國数ヵ所に験潮所があって，海水面の昇降が連続的に観測されている．これは神奈川縣油壺の験潮所附近の風景．向う岸の左手に見えるのが験潮所である．⑧験潮所では，海水を井戸でひき込んで，それにうきを浮かべてある．そのうきの上り下りが絶えず観測されている．⑨その検潮儀のところに物指をたてて，外から望遠鏡でねらう．⑩この望遠鏡には，敏感なレベルがついている．前方の物指の目盛りをよんでから鉛直軸のまわりにまわして後方の物指の目盛りを読む．この二つの目盛りの差から，高さの差が求められる．この測量を順々につないでゆき，高さを正確に決めるのが，水準測量である．

6

①水準測量は，一台の水準儀と，二本の標尺とが一組になって行われていく．こういう測量が順々につなげられて，全國にある水準点の高さが決定される．地理調査所の水準点は，全國に一万点以上もある．②水準儀．望遠鏡の筒の左側についているのが敏感なレベルである．③水準点はたいていは，道路に沿った所にあるが，往來のはげしい所では，このように地中に埋めて保護されているものもある．まるくみえる鋲のてっぺんの高さが

測量によって正確に求められる．④物指をおくのは，このような特別な台が使われる．⑤水準儀に陽があたるのを，傘で防いでいる．⑥道路の交通を避けながら水準測量は進められていくのである．⑦こういう測量の行われる道が水準路線で，この路線に沿って2km 毎に水準点がある．⑨水準点．中央の石の丸い凸出の高さを測る．⑧故障点．

三角測量や水準測量によって，地図のしっかりした骨組ができ上ると，それらを基準として，小さい部分の測量が行われる．道・山の高低，川，畑など，土地のこまかい様子がえがかれていく．この種の測量を地形測量とよんでいる．小さい距離内での測量であるから，作業は，大分簡単である．①測量板で，スタジアを使っている．②スタジア．③標尺．④火見櫓なども，測量の目印に使われる．⑤この程度の簡単な経緯儀も使われる．⑥これも簡単な経緯儀である．⑦距離を測るのに使われる測桿．⑧ねらいに使われる覘板．⑨測量の結果は，このような手簿に書込まれる．⑩計算をすませてから，その結果にもとづいて，製図の作業が行われる．せまい所を一部分ずつ担当している．⑪現地では，夜や雨天の日には測量ができない．そういう時間を使って，原図を描いていくのである．朝はやくから夕方までは測量，夜は整理と製図．測量士の生活はまことに多忙である．しかし建設の喜びがある．

地図を手早く作るのに，飛行機から写眞をうつすという方法がある．これが航空写眞測量である．天氣のよいとき，一定の高さから，眞下の写眞を次々に 60％ずつ重なるようにしてうつしてゆく．(つまり地上のすべての点は二枚の写眞にうつされる)．この方法は迅速な点で非常に便利であるが，若干のゆがみは避けられないので，やはり地上の三角測量によって修正されなければならない．①の写眞は三重縣長島村附近である．右下の地図と，対照しながら見てほしい．

⑤はムルチプレックス．同じ地点を撮した二枚の写眞の陽画原版を赤，靑のフィルターを入れた投射器の中に入れると，図板上に光模樣が出來る．赤靑の眼鏡をかけてその地肌をたどりながら描画器で地図をつくる．④はプラニグラフ．原理は同じ．ハンドルを廻して光模樣を観測すると描画裝置②③で自動的に図化される．

もともと丸い地球であるから，平面の地図にあらわすことは，実ははじめから無理なのである．丸いままの地図が地球儀である．①のように切った紙片を，②のような球に貼っていくのである．それでも多少の無理があることは避けられない．③はでき上った地球儀．④⑤二十万分の一地形図は横は経度１度ときまっているので，その実際の寸法は北（北海道）と南（鹿児島）とでは大変違ってくる．⑥⑦⑧⑨土地の高低をあらわすのには，いろいろの方法がある．等高線もその一つであるがこれらの写眞のように，あたかも浮彫りのように見えるものもある．⑥はケバ式，⑧は等高線式の表現法で，⑦⑨は立体的にみえる等高線式である．

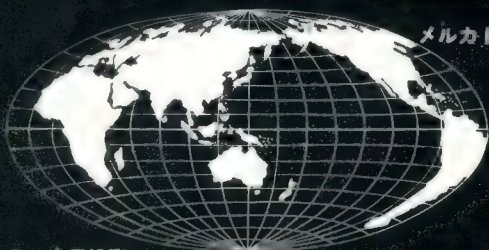
多円錐投影

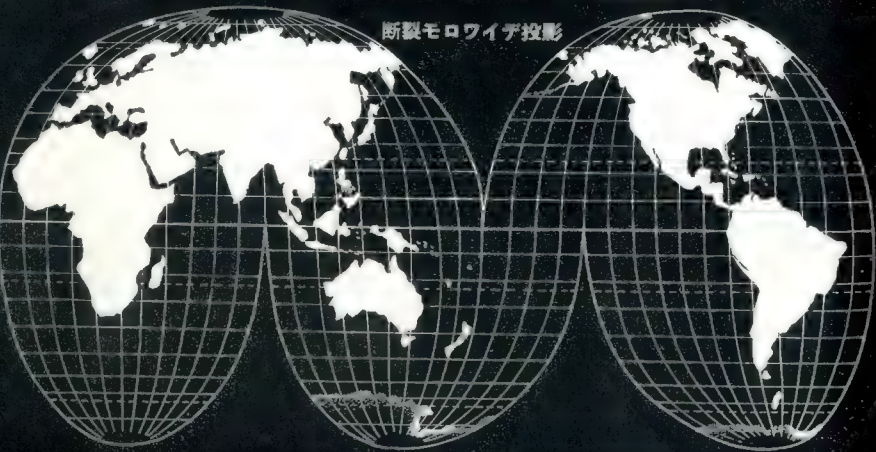
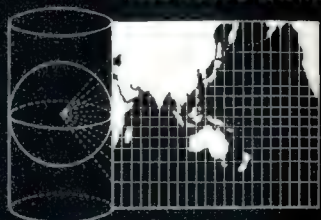
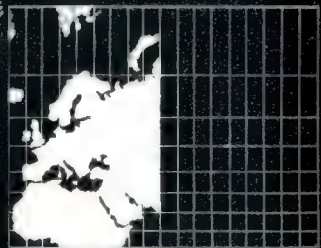
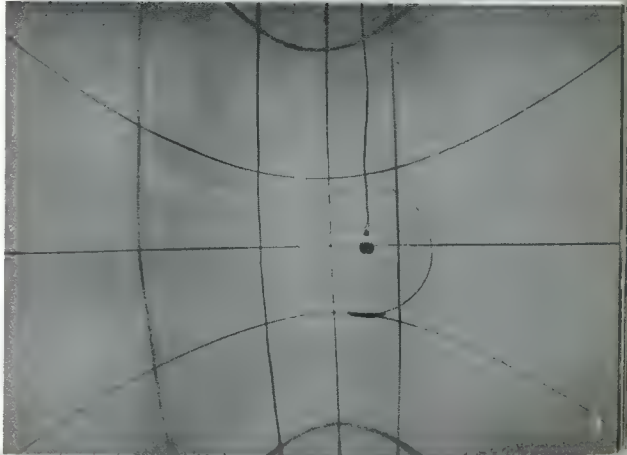
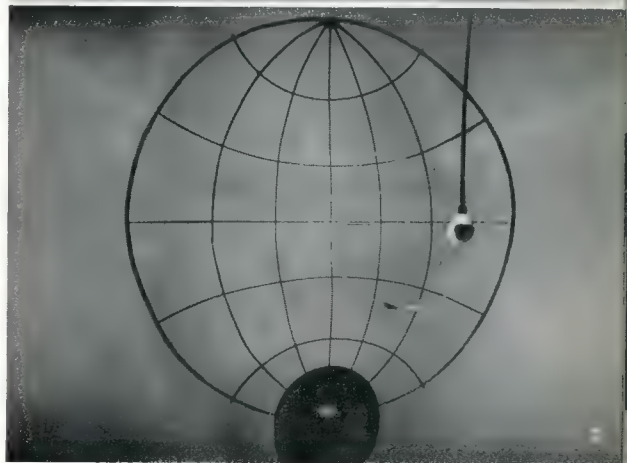
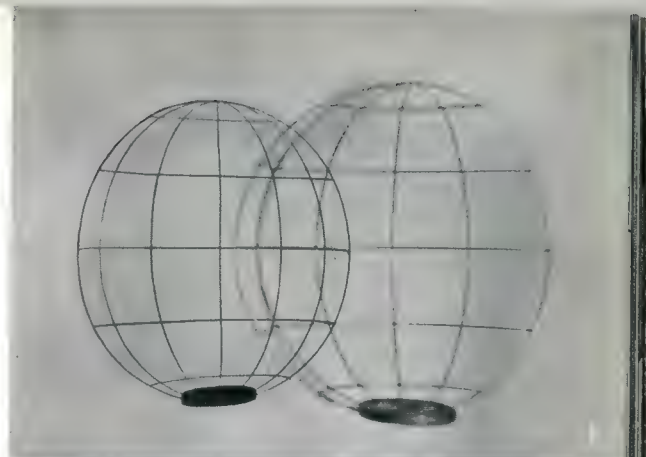
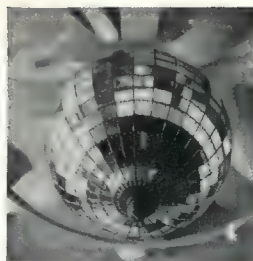
単円錐投影の展開

単円錐投影

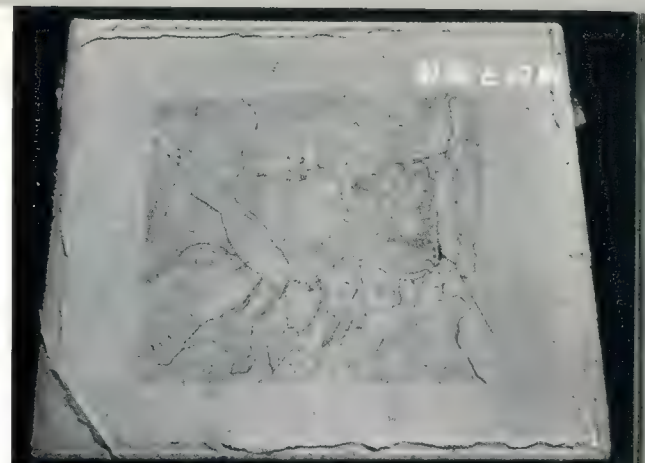
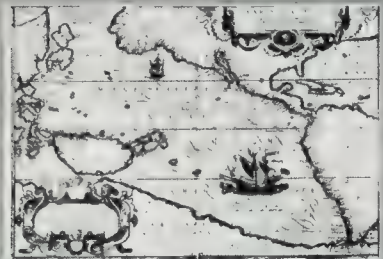
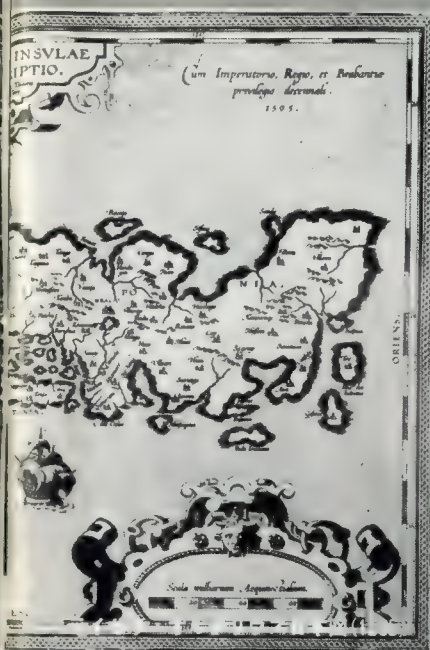
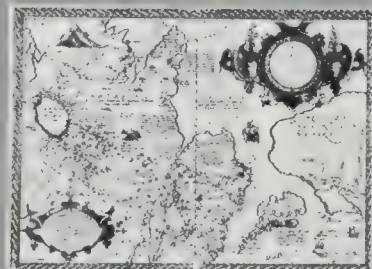
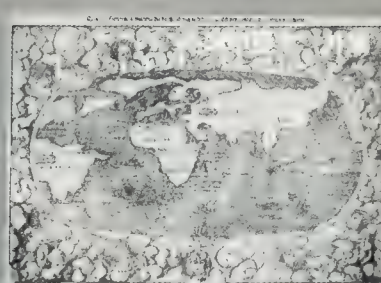
二基本平行圏円錐投影

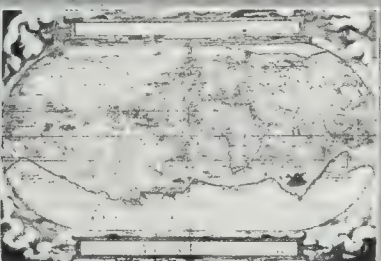
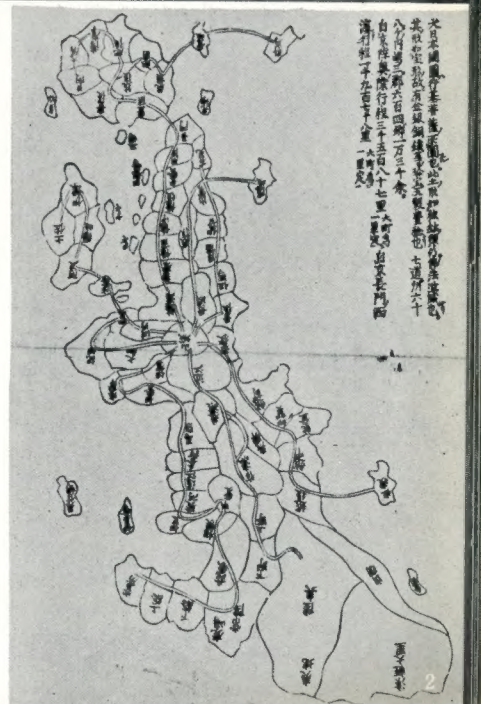
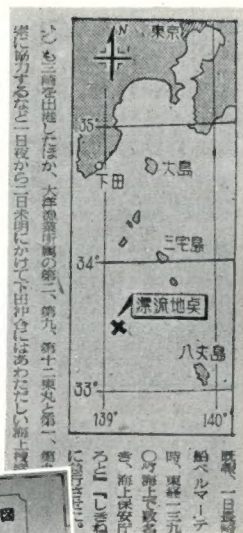
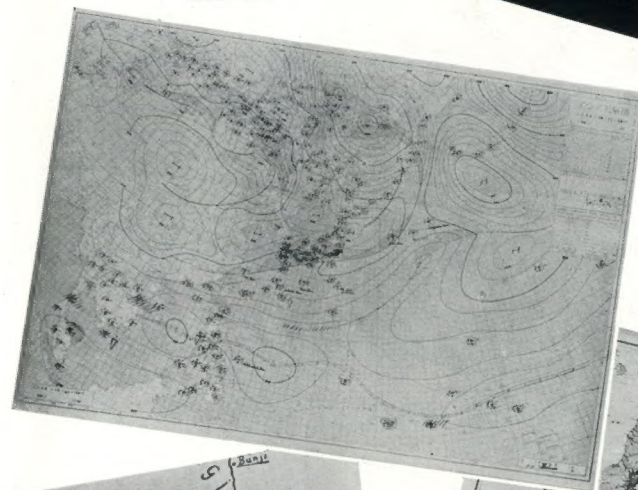
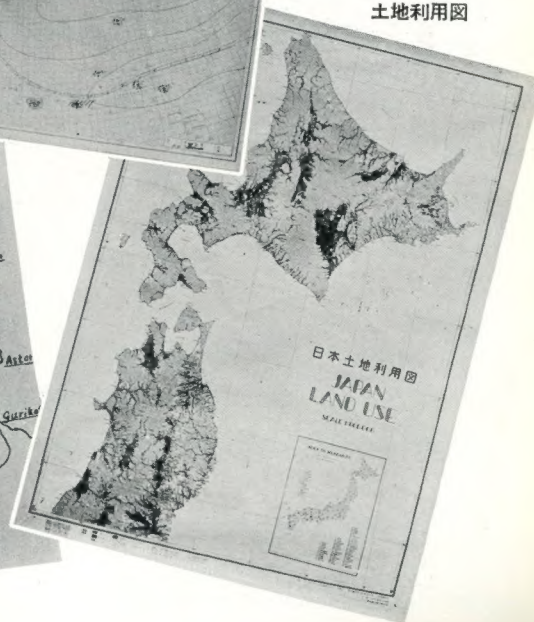
円壔投影

多円錐投影の展開

メルカトル投影

エートフ投影

断裂モロワイデ投影

丸い地球を平面の地図としてあらわそうというのであるから，地図によって夫々或る規約の下に投影が行われる．面積を正しく表そうとすれば，形が犠牲になり，方向を正しく表そうとすれば，尺度が犠牲になる．①光源を遠くにおいて，経線と緯線の影を壁にうつした．これが正射投影である．②光源を球面上においたのが透視投影であって，球面上の円の影は，やはり円になる．③光源を球の中心においたのが，中心投影であり，大円は直線となる．④20万や5万の地形図は，多面投影であって，いわば小さい梯形を球にはりつけたと思えばよい．あれをつなぎ合せれば，平面にはならないで，球面に近いものになる．左頁には各種投影法による地図を示した．エートフ投影では面積が正しく表わされる．断裂モロワイデ投影も面積が正しく表わされる．

①一人の測量者は一平板，すなわち一枚の地図の四分の一を受けもつ．それを四枚貼り合わせて測量原図ができあがる．測量原図からただちに製版，印刷したものが，いわゆる仮製版である．②普通は測量原図を四分の五倍に引伸し，その藍焼の上に製図の専門家が製図しなおす．⑤短い直線を描くときには，こんなガラス棒の定規をつかう．③註記の文字は，製図しないで，写眞植字したものを貼り込むこともある．④ある種類の地図の原版は，銅の板に直接に彫刻してつくられる．

⑧できた原図はこんな大きな写眞機で撮影される．ピントガラスには物指をあてて大きさを正確にあわせる．⑨原板から製版されて印刷にまわる．紙は丈夫でなくてはならぬし，のびちぢみが大きくてもいけない．⑩原版はこのように整理され大切に保存される．⑪全國のどこの原図も，分類され整理され，格納されている．⑥⑦年がたつにつれて，土地の様子もかわるので，順順に修正版が発行される．これらは東京南部，⑥(昭和７年)と⑦(昭和20年)とを比較対照してみてほしい．

①コロンブスのアメリカ発見後53年．ポルトガル人の種子ヵ島渡来後２年の地図．ドイツ発行の木版手彩色，傳説のジパングがカリフォルニアの沖にある．③になるとジパングが実地のヤポニヤになっている．④～⑪は銅版，⑤日本地図の出版は日本より早い．これは行基図をもとにしている．⑧オランダ人のエゾ地探検後の航海図．北海道と樺太が陸続きである．

古い地図を眺めるのは大変興味深い．なぜなら，それらは現在の地図を生み出した母胎であり，その永い傳統を目のあたり示してくれるからである．いかに幼稚な地図でも，それを描くためには多くの人々の長年月にわたる苦心と経験がつみ重ねられたのである．文学や美術が一國の文化の尺度だといわれるように，地図は科学的文化の総和を示す羅針盤である．

日本の地図の歴史には四つのエポックが数えられる．第一は行基図，次は赤水図，第三は伊能忠敬の地図，それから明治以後の陸地測量部の地図である．古い記録では，大化の改新と共に國々の図を徴したとあるが，現存する最古のものは，仁和寺所蔵のいわゆる「行基図」②で，嘉元3年（1305年）のものである．奈良朝時代の僧，行基の作と傳えられるこの地図は外國にも渡ったが，我が國でも民間の伊万里地図皿⑤などとして，幕末まで傳統が続いた．

長久保赤水（水戸藩）の赤水図⑦はわが國最初の科学的労作で経度は京都が中心になっている．

大日本図鑑　延宝六年（1678）

改正日本輿地路程全図　安永八年（1779）

日本辺界略図　文化六年（1809）

伊能忠敬の事績はあまりに有名だが，③は「実地検証」によるその地図．56歳から73歳まで前後18年を費して大中小三図を作り，死後3年の文政4年（1821）に完成，幕末に至って小図が開成所から「官板日本実測図」として，木版で出版された．①は林子平の三國通覧図説の附図5枚中の1枚．北辺の警備をとなえて憂國の情から作ったが，発禁にあい「親もなく妻なく子なく版木なし」と嘆いた．間宮林蔵の探検以前のもの．④は江戸の古図．⑥はケンペルによって世界に紹介された．⑧は幕府天文方の高橋作右衛門景保が官命により，永田善吉をして銅版に彫らせた千四百万分の一，円錐投影法による正確な地図．作成にあたり間宮林蔵に樺太を踏査させた．これはシーボルトにより飜刻され世界に発表されてシーボルト事件を起し，景保は牢死した．

## 地図のいろいろ

地図の切手

國連旗

天氣図

土地利用図

山地概念図



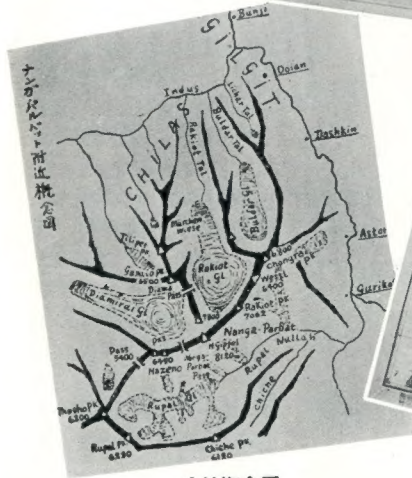
昔の絵図

新聞記事の
なかの地図

北海道開拓地入植状況分布図

交通路線図

観光案内図

# 岩波写真文庫目録

1 木綿
2 昆虫
3 南氷洋の捕鯨
4 魚の市場
5 アメリカ人
6 アメリカ
7 雪の結晶
8 写真
9 レンズ
10 紙
11 蝶の一生
12 鎌倉
13 心と顔
14 動物園のけもの
15 富士山
16 積雪
17 いかるがの里
18 鉄
19 川—隅田川—
20 雲
21 汽車
22 動物園の鳥
23 様式の歴史
24 銅山
25 スイス
26 スキー
27 京都—歴史的にみた—
28 力と運動
29 アメリカの農業
30 アルプス
31 山の鳥
32 奈良の大仏
33 尾瀬
34 電話
35 野球の科学
36 星と宇宙
37 蚊の観察
38 長崎
39 高野山
40 正倉院(一)
41 彫刻
42 仏像
43 化学繊維
44 蛔虫
45 野の花—春—
46 金印の出た土地
47 東京—大都会の顔—
48 馬
49 石炭
50 桂離宮と修学院
51 日光
52 醤油
53 文楽
54 水辺の鳥
55 米
56 正倉院(二)
57 石油
58 千代田城
59 歌舞伎
60 高山の花
61 波
62 京都御所と二条城
63 赤ちゃん
64 オーストラリア
65 ソヴェト連邦
66 能
67 造船
68 東京案内
69 平泉
70 手術
71 宮島
72 広島
73 佐渡
74 比叡山
75 阿蘇
76 信貴山縁起絵巻
77 針葉樹
78 近代芸術
79 日本の民家
80 季節の魚
81 シャボテン
82 新劇
83 郵便切手
84 かいこの村
85 伊豆の漁村
86 奈良—東部—
87 奈良—西部—
88 ヒマラヤ
89 上高地
90 電力
91 松江
92 動物の表情
93 金沢
94 自動車の話
95 薬師寺・唐招提寺
96 日本の人形
97 システィナ礼拝堂
98 美人画
99 日本の貝殻
100 本の話
101 戦争と日本人
102 佐世保
103 ミケランジェロ
104 空からみた大阪
105 宗達
106 飛驒・高山
107 ゴッホ
108 京都案内—洛中—
109 京都案内—洛外—
110 写楽
111 熊
112 東京湾
113 汽車の窓から—東海道—
114 地図の知識
115 姫路
116 硫黄の話
117 伊勢
118 はきもの
119 隠岐
120 源氏物語絵巻
121 農村の婦人
122 出雲
123 アルミニウム
124 水害と日本人
125 日本のやきもの
126 貝の生態
127 イスラエル
128 伴大納言絵詞
129 瀬戸内海
130 飛鳥
131 聖母マリア
132 日本の映画
133 能登
134 山形県
135 福沢諭吉
136 利根川
137 鹿児島県
138 伊豆半島
139 日本の森林
140 高知県
141 チェーホフ
142 仏教美術
143 一年生
144 長野県
145 塩原
146 日本の庭園
147 木曽
148 忘れられた島
149 近東の旅
150 和歌山県
151 函館
152 豆
153 大分県
154 死都ポンペイ
155 富士をめぐる—空から—
156 神奈川県
157 柔道
158 戦争と平和
159 ソ連・中国の旅—桑原武夫—
160 伊豆の大島
161 ジョットー
162 熊野路
163 鳥獣戯画
164 愛媛県
165 やきものの町
166 冬の登山
167 埼玉県
168 男鹿半島
169 フランス古寺巡礼
170 滋賀県
171 白浜
172 東京国立博物館
173 千葉県
174 箱根
175 細胞の知識
176 四国遍路
177 村の一年—秋田—
178 セザンヌ
179 石川県
180 琵琶湖
181 仏陀の生涯
182 香川県
183 日本—1955年10月8日—
184 練習船日本丸
185 悲惨な歴史—ドイツ—
186 ボッティチェリ
187 東海道五十三次
188 離された園
189 松島
190 家庭の電気
191 アメリカの地方都市
192 五島列島
193 塩の話
194 パリの素顔
195 横浜
196 日系アメリカ人
197 インカ
198 奈良をめぐる—空から—
199 子供は見る
200 雪舟
201 東京都
202 アフガニスタンの旅
203 渡り鳥
204 群馬県
205 ブラジル
206 ルーヴル美術館
207 北海道(南部)
208 小豆島
209 日本—1956年8月15日—
210 富山県
211 毛織物の話
212 北海道(東・北部)
213 自然と心
214 空からみた京都
215 世界の人形
216 愛知県
217 諏訪湖
218 鉄と生活
219 山口県
220 麦積山
221 北京
222 江南
223 四川
224 広州—大同
225 室蘭
226 山水画
227 三重県
228 白山
229 鵜飼の話
230 島根県
231 小さい新聞社
232 北海道(中央部)
233 近代建築
234 岡山県
235 ねずみの生活
236 札幌
237 日本—1957年4月7日—
238 広島県
239 北陸路

新刊

240

241

242

243

日本電力図

東京特別都市計画図↑

東京都内交通図→

國立公園案内図↓

海図

地図原版(濕板)　道路など修正のため消されている

¥ 100